※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3014

令和５年度　工業科

教科	工業科	科目	(学)ものづくり基礎	単位数	４単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・ものづくり基礎は各実習を通して、ものづくりに対する興味、関心、安全衛生など技術者としての倫理観について学習します。
・授業の中では、ものづくりに必要な基本的な知識や技能を学習し、その内容を実践することで学習の効果を高めるようにしましょう。

2　学習の到達目標

ものづくり実習・学習を通じて豊かな感性を備えた人間性の育成を図るとともに、勤労観・職業観を身に付けさせる。ものづくり基礎実習では、製図、木工、工芸等の基本を学習することで、作製することの喜びや達成感・成就感を体験させる。

(1)　ものづくりに関する幅広い知識を習得するとともに，関連する 技術を身に付けるようにする。
(2)　各実習の技術に関する課題を発見し，技術者として科学的な根拠に基づきものづくりに関する技術の進展に対応し解決する力を養う。
(3)　ものづくりを通して、技術の向上を目指して自ら学び，産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	ものづくりに関する幅広い知識を習得し、実際の作業を通して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	各実習の技術に関する課題を発見し、ものづくり産業に携わる者として科学的な根拠に基づき技術の進展に対応し解決する力を身に付けている。	ものづくりを通して、技術の向上をめざして自ら学ぶ意欲的な探究心とものづくり産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期・後期	製図Ⅰ座学	・製図の知識 ・文字、記号の練習 ・図学 ・投影図	a:プリント教材を通して理解することができる。 b: 作図、読図ができ、発表することができる。 c: 課題に対して主体的に取り組むことができる。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品
	製図実習	・投影図、補助投影図 ・断面図、展開図 ・寸法記入 ・機械要素の製図 ・機械部品の製図	a: プリント教材を通して理解することができる。 等角図から三面図を描くことができる b:場面ごとに使用する工具を判断する力を身に付けている 三面図より立体図を考える力を身に付けている。 c:機械製図に関心を持ち、課題に取り組むことができる。 作図方法を理解し、主体的に製図課題に取り組むことができる	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品
	木工	・安全の知識 ・工具の知識 ・デザインと図面の作成 ・イス、ゴミ箱等の作成	a:安全作業や工具の使用方法を理解している、図面が描ける。 b:場面ごとに使用する工具を判断する力を身に付けている。 図面を読み取り作品制作ができる。 作業工程を理解している。 c:木工に関心を持ち、課題に取り組むことができる。 木工を理解し、主体的に課題に取り組むことができる。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品

※令和４年度以降入学生用

	工芸Ⅰ	・陶芸 やきものの分類と歴史 ひもづくり・タタラづくり ・バーナーワーク 基本玉巻き 粉掛け・線流し・変形玉 点打ち・花柄	a: 工具の使用方法や基礎・基本的な制作技術を身に付けている。 b:工具の使い方や作業工程を考える力を身に付けている。 c: 工芸に関心を持ち、課題に取り組むことができる。 工芸を理解し、主体的に課題に取り組むことができる。	・提出物 ・学習状況の観察 ・作品	・学習状況の観察 ・作品 ・自己評価	・学習状況の観察 ・自己評価 ・作品

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度